



河小だより

四日市市立河原田小学校
第10号 2019. 10. 1

●運動会、ありがとうございました!●

雨の心配をしつつ、21日土曜日に、たくさんの来賓並びに保護者の皆様に参観いただきながら、運動会を無事開催できました。誠にありがとうございました。

今年のテーマは「ベストをつくせ 河っ子だましい!」でした。子どもたち全員が、全力で取り組んだ運動会でした。よく頑張りました!

開会式でも話をしましたが、ここで使われる「たましい」の意味は、「気持を持つ」ということだと思っています。運動会だけでなく、常に「ベストをつくす」という気持ちで、学校生活を送るという気持ち、それが「河っ子だましい」だと私は捉えています。なかなか難しいことですが、挑戦する値打ちがあることです。今後の子どもたちの姿に期待します。

今、ラグビーのワールドカップが日本で開催されています。100キロを超す鍛えられたラグーマンが、すごいスピードで正面からぶつかり合う姿を見て、「すごい」「激しい」「これって、絶対怪我するよ」「危なくないかな」と思いつつも、つい、その姿に見入ってしまいます。そして、いつも思うことは、試合をコントロールする審判の素晴らしさと、審判の指示(ルール)には必ず従うラグーマンの清々しさです。ラグビーには、選手は勿論のこと、審判も含めて、全員で素晴らしいゲームを創り上げようとする「魂(たましい)」を感じるのです。その根本には、お互いに「リスペクトする(尊敬する)」という精神があると思っています。それは、学校の授業も同じです。今回の運動会も同じです。子どもたちの徒競走や団体競技で、たとえ失敗しても、たとえ差が開いていても、最後まで走りぬく姿。真剣な顔がそろい、動きがそろい、力を合わせ、踊りきるダンス。順位、勝ち負け、出来・不出来、得意・不得意にかかわらず、競技や演技に全力を尽くす姿は、子どもたちは勿論のこと、教職員も、応援してくれる保護者、地域の方も含め、全員でいい運動会を創り上げようとする「たましい」、そして「尊敬し合う」気持ちが、そこにあると信じています。だからこそ、感動が生まれるのだと思っています。

運動会を全員で創り上げることに協力していただいた保護者の皆さんに感謝します。最後まで応援していただいたことは勿論ですが、細かな約束事を守っていただき、整然とした運動会の雰囲気を作っていたいただくと感謝しています。加えて、運動会終了後の後片付けにPTA役員の方々だけでなく、多くの方に協力していただきました。子どもたち、保護者の皆さん創り上げた運動会だと強く感じています。本当にありがとうございました。ただ、最後に一点だけ、お願いがあります。学校だよりやPTAだよりで、飲酒及び喫煙を控えていただくように依頼しました。しかし、実際は、敷地内での喫煙はなかったですが、周辺の道路、側溝にたばこの吸い殻がたくさん捨てられていました。PTA役員の方が、運動会終了後、全ての吸い殻を拾ってくれました。また、飲酒をしていた方が見えたようです。小学校の教育活動の場においては「秩序の中の自由」を重んじています。子どもたちの中にもその点を厳しく指導しています。どうぞ、小学校の教育活動並びに小学校の敷地内においては、ルールを守った行動をお願いいたします。



●「全国学力・学習状況調査」結果より●

本年度は、算数科、国語科の学力調査が実施されました。例年と違うところは、A問題・B問題という区別がなくなりました。結果の分析を記載します。今までに比べ、正答率が低くなったことから、分析は「弱み」が多く、改善点がに重きが置かれました。

(1) 学力の状況より

- ★ 国語の問題の正答率は、全国を下回る結果であった。
- ★ 算数の問題の正答率は、全国を下回る結果であった。

(2) 全体的にみた強みと弱み

【国語】

- ★ 記述問題の正答率が低く、無回答率が高い。
- ★ 文脈の中で漢字を使うことができない。その漢字自体を書くことはできるが、活用していく力が養われていない。
- ★ 「文章を読み手に伝わるように書き直す。」といった『要約』する力が備わっていない。また、字数制限など、条件に合わせて書く力も弱い。
- ★ 全体を通して、文章を読み取る力が弱い。文章の構成が理解できていなく、内容を文脈として捉えられないことが考えられる。

【算数】

- ★ 記述問題の正答率が低く、無回答率が高い。
- ★ 問題文を読み取る力が弱く、問題文が長くなったり複雑になったりすると正答率が下がる。
- ★ 記述問題の中でも、特に、式を見て計算の仕方を説明したり、法則に着目して例に習って算数の言葉を使って説明したりする問題の正答率が低い。
- ★ 既習内容が定着しておらず、基礎的な力が備わっていない。

(3) 新たな学びの場について

- ★ 書くこと、読むことの指導の充実
 - ・制限字数の中で、自分の考え（意見）を書くこと、自分の考えの理由をはっきりさせながら書くことを繰り返し取り組んでいく。
 - ・説明文の指導を主として、文章の構成が理解できるように指導していく。そして、文書構成を意識して文章が書けるように取り組んでいく。
 - ・天声人語・中日春秋といった、「新聞」のコラム欄などを活用して、文章を読むこと、書かれていることを要約するという学習活動に取り入れる。低学年は、簡単な詩や文章を読むこと、文章を視写することを学習活動に取り入れる。
- ★ できる・わかる活動の充実
 - ・整数・小数・分数の計算を確実に定着させるとともに、数量の関係に着目させる指導を系統的に行っていく。また、式のみを用いた指導だけでなく、具体物や反具体物、数直線や面積図を用いて、式を「見える化」し、意味の理解の指導を大切にする。
 - ・算数科においても字数制限等の条件を設け、書く活動を行っていく。「○○であるから、▲▲である。」といった形式で書かせたり、答を出すための見通しを筋道立てて書かせたりする。

(4) 家庭学習の充実に向けて

- ・宿題の出し方、分量などについて、基礎・基本の定着に加えて、児童が学ぶことの楽しさを実感できるように授業の内容と関連付けて、予習的な宿題や復習的な宿題を工夫して出していくようにする。例えば、一斉に同じ内容の宿題を全員に出す（漢字練習・計算ドリル・音読・問題演習等）だけでなく、質や量をそれぞれの段階に応じて出す宿題（語句の意味調べ・個々に応じたプリント学習・テストのまちがい直し等）や自主学習（本校では、1年生から『プラス1ノート』と位置付けて取り組んでいる）を組み合わせ出していくように工夫する。
- ・1学期末より取り組んでいる、家庭のパソコン・タブレット・スマートフォンで利用できる「みんなの学習クラブ」の活用を推奨する。